



岩代 一宏 議員

Q 公約の「産業の元気な村づくり」、三年間の考察とラスト一年の思いは

A いち早く有機農業の村づくりをテーマに取り組まれたことは評価できるが、まだクリアしなければならぬ問題も多い。特に後継者不足、有機堆肥の利用促進、農産物の販路拡大等々。これ等についての考察は？

A 掲げた全てにおいて諦めずにまっとうしたい

村長

堆肥センターは製品の貯蔵施設を設け需要に対応したい。また6次化をさらに推進し有利販売の体制づくりを図っていく。自分たちで何とかせねばとの機運も高まりつつあり、今後はさらに加速させていきたい。

Q 観光と農業…この点について今後の考えは

A 地産地消協議会に対して、今年度予算がゼロになった理由は、

A 次のステップに向け、新たな支援をしていくことが大事

村長

当初の約束の期限が来たため。補助金については、次の段階に向け新たな支援をすることが大事と考える。様々な補助金も今後、見直していく。

課長 農政 予算の配分がゼロになったから推進を止めたというところではなく、事務局は農政課内にあり、必要な場合は補正で対応したい。

Q 各事業に対する予算配分の基本的な考え方は

A もつとメリハリを付けた方がより公約の実現には近道だったとは考えられないか。

A この三年間、様々な要因が重なり難しい舵取りだった

村長

慢性的なデフレ経済に加え、政権交代、想定外の自然災



今村 六王 議員

Q 県道矢部阿蘇公園線の無開通区間の取り組み状況は

A 現在県道、矢部阿蘇公園線は駒返峠で開通するのみに止まっているが？

A 実現に向けてさらなる努力をしたい

建設課長

主要地方道矢部阿蘇公園線は、大正9年県道認定、昭和57年主要地方道に昇格。さらに阿蘇くじゅう国立公園の利用計画

害等が重なり、長期的な予測が難しい中、できる限りのことはやれた。最新では14年ぶりに新駅白川水源駅も運用を始め、新幹線効果を最大限に引き出す礎もできた。



にも位置付けられている重要路線道路。整備促進期成同盟会、地元期成会等を結成。県議会、県選出国会議員に対して強く要望活動中。南阿蘇村側の既設部分は改良を完了。未開通区間駒返峠付近の調査と課題整理を行う旨の返答が熊本県からあった。

Q 早期実現に向けて今後の進め方は

A 現時点ではかなり厳しい

村長

国も県もなかなか財源的に厳しい時であり、期成会会長であり、山都町の甲斐町長と一緒に県議会、県選出国会議員に要望は、重ねている。皆さんと共に実現に向けて努力したい。